

「一般社団法人 社会福祉経営全国会議」

管理職養成学校ニュース



2021年12月20日発行 (No.4) 連絡先/〒543-0045 大阪市天王寺区寺田町 2-5-6-902



2023年11/21 (火) ~22 (水)

第3講座が1泊研修として与謝野町で開催されました！

8月にスタートした養成学校ですが、第3講座は1泊研修！ということで全国から受講生24名が京都府与謝野町に全員集合！開校以来、オンラインでの自主ゼミ・講座参加での交流は活発に行われていましたが、受講生どうして実際に会うのは今回初めてで、喜びの対面でした。2日間好天に恵まれ、秋晴れのもと開催することができたことも何よりです。宿泊先の一つである「かや山の家」から、ゆる～い雲海の景色を楽しむこともできました。ご多忙なか、多岐にわたる学校運営へのご協力を賜りましたよさのうみ福祉会の青木理事長はじめ利用者、職員の皆様に、全国会議研修委員・養成学校事務局一同厚く御礼申し上げます。

～第3講座の獲得目標～

- ① 福祉施設の管理業務である「福祉実践」「教育」「労務」「経営」「運動」について、他法人から学ぶ機会とする。
- ② 社会福祉とは異なる業界の経営・管理業務を学び、管理者としての見識を高める。
- ③ 受講生どうしの連帯感、仲間づくりを促進する場とする。



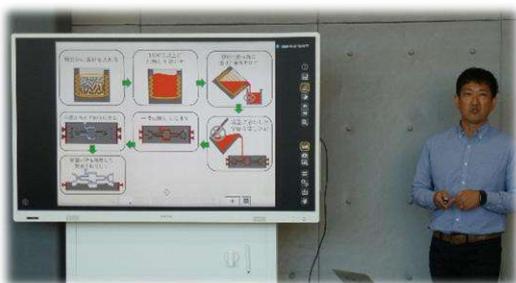
1日目 ～リフレかやの里 加工場見学～



昨年までリフレかやの里での講演からのスタートでしたが現在閉館中の為、今回は加工場のみの見学となりました。主任や支援員の方の説明や思いを聞きながら見学をさせて頂きましたが、障害のある人が当たり前働き・暮らしていくことを保障するために、私たちの仕事、社会福祉の役割があると改めて考えさせられる時間となりました。



～シオノ鋳工株式会社～ 管理職養成学校1泊研修の目玉として「異業種の経営者から学ぶ」



講座は、3年連続で(株)シオノ鋳工の塩野浩士氏です。受講生は事前にシオノ鋳工のホームページを見てからの現地入り。ホームページからもユニークな塩野社長の姿や、スタッフが企業紹介するユーチューブなど、福祉業界から見るととても斬新な会社の様子が伝わります。まずは工場見学。危ないので外から見るだけですが普段目にするこの

シオノ鑄工 新工場！



ない鑄物の作業工程を見たり、休憩所にも休日取得日数や自己紹介シートなどが貼ってあったり等、なかなか私たち福祉の職場では目にすることが少ない掲示物もたくさん見られました。

その後、新工場（ラボ棟）へ移動し、塩野社長の講義。鑄物の話から始まり、リーマンショックで経営が行き詰ったときに「経営理念」を社員と考えたり、鑄物工場という熱い現場で体調を崩す社員が増えたことをきっかけに給食を提供するなど、社員を大事にする

姿、給与のベースアップのために社員自身がプレゼンテーションをすること、仕事以外の関係づくりとして、「ヒロシの部屋」と名付けられた飲み会や、釣り大会やソフボール大会など、楽しそうな取り組みも盛りだくさん。中でも三輪車レースについては取り組みを熱く語られていました。又、塩野社長は「丹後地域を活性化させたい」という思いも強く持っておられ、何を聞いても「目から鱗」であり、斬新な発想やアイデアでありながら、福祉現場で全部は真似できないけれども参考になるお話をたくさん聞かせていただきました。塩野社長のような「社員思いの魅力的な管理職」に私たちもなりたい、そう思える講義でした。



昼食は併設された「ZIP CAFÉ」で20品目以上を使って調理されている、日替わりランチ。メニューはシオノ鑄工の社員さんも同じものを食べているそうです。ささみカツ、美味しかったです。昼食後に新工場を見学。リゾートホテルのような雰囲気、「ここで働きたい」と思いました。



～かや山の家～



昼食を終え、大江山の「かや山の家」へ移動。

まず最初に「リフレかやの里」管理者の藤原さゆり氏より「リフレかやの里の取り組み 12年の成果と今後の課題」というテーマの講義を聞きました。

藤原氏は学校卒業後に無認可作業所に入職しはじめての給料日。仲間より給料が多かったことに疑問を感じたこと、それが「みんなに少しでも多くの給料を払えるようになること」が自分の仕事である、と志し「仕事づくり」に邁進されました。「リフレかやの里」は、「障害のある人たちに給料と仕事を保障する」「地域を元気にしたい」そんな思いで、町が指定管理を公募した際に応募しました。リフレでのレストランやホテルの仕事を通して直接地域の方々と接し、声をかけてもらうことで仲間も自信をもって仕事をする姿が見られ、地域の方々も、おいしいものを食べたり、温かく大きなお風呂に入ることができて嬉しい、双方が喜びあえる、そんな地域とのつながりを大事に運営されてきました。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の影響や町の方針転換で「リフレかやの里」は2022年度末で業務委託が終了。本館が営業休止という状況になりました。それに伴い福祉会でも就労A型事業を廃止する状況に。それでも藤原氏は今後の展望として、

- ★リフレかやの里の課題と与謝野エリアの課題を一緒に解決していく視点を持つ。
- ★農業、農産加工を発展させて、更に農福連携を通して、地域と共に歩いていく。
- ★多くの人たちと連携し行くことを通して、利用者の活躍の場を広げていく。

と力強い思いを発信され、講義が終わりました。入職した頃の想いを常に忘れずに実践し続ける藤原氏の姿に皆感銘を受けました。「リフレかやの里」は2025年営業再開を目指しているそうです。

続けて、恒例のプレゼンテーションです。今回の課題は第二回の浜岡先生の「社会福祉法人のあり方」について学び、社会福祉法人の現状と課題を踏まえつつ、法人の理念に照らして、自施設の存在意義・価値を振り返り、自分の職場の運営課題を明確にし、リーダーとして運営課題の解決に向けての道筋を考えた、「組織運営について」がテーマです。法人内の管理者の集まりの場を想定して3分間で語る設定です。何よりも初めての対面でのプレゼン！受講生の皆さんの緊張感もより伝わってきましたが、小道具を駆使して自施設が抱えている運営課題をわかりやすく、切実に語る姿が印象的でした。第四講義、第五講義でのプレゼンも非常に楽しみです。



～夜の部～ 🍷🍷🍷



プレゼン発表の緊張感も解け、夕食は「山の家」で美味しいジビエカレーを頂きながら受講生さん同士の交流タイムで盛り上がりました。ゼミメンバーとは卒業発表に向けての打ち合わせ。また、普段のゼミメンバー以外の方との交流も活発に行われ、管理職どうして情報交換、悩みを言い合ったりと貴重な時間を過ごせたのではないのでしょうか。宿泊先に分かれた後も夜遅くまで交流は続いていたようです。



2日目 ～やすらの里・青木理事長講義～「よさのうみ福社会の福祉経営実践と組織運営」



受講生の皆さんは前日（特に夜）の疲れも見せず、充実の表情で地域共生型福祉施設「やすらの里」に集合しました。まずは、運営する4法人を代表して（社福）丹後福祉応援団 三井真里理事長の挨拶からスタートしました。法人の説明や「やすらの里」設立の経緯について、また受講生へのエールもいただきました。

そして、第3講座のテーマ「組織運営を学ぶ」について、よさのうみ福社会青木一博理事長の講義です。①福祉と地域、行政が連携し取り組んだ『リフレかやの里』の再生、②4つの法人と与謝野町が連携し、『共生型福祉施設』の整備・運営、の2つの実践から学びました。もちろん、これらのことはある日突然形になるわけではありません。与謝の海養護学校づくり運動や障害者の働く場・暮らしの場づくり運動をはじめとした、地域ニーズに基づく地域づくりの取り組みがあってこそその現在です。よさのうみ福社会では、これらをバックボーンとした法人理念があります。組織運営の肝はこの理念の共有にあります。そのために、2012年3月に「法人のめざすもの」を作成し、①夢ビジョン、②目指す職員像、③中期計画、④法人組織改革、⑤安定した財政基盤について、「文書化」し「見える化」してきました。職員一人ひとりが、理解・認識し実践していくための仕掛けづくりが大切です。そのことを学び、自法人・自施設の理念・めざすものに基づく組織運営の在り方について、再確認した講義となりました。



第4講座 12月21日（木）

「財務分析と事業計画」 講師：山本匡人氏（中央会計税理士法人）

プレゼンテーマ 自事業所の財務分析を踏まえた上で、財務計画を発表します。